

東日本大震災対策委員会 エネルギー政策の選択肢分科会(第6回)議事要旨

1. 日時: 平成23年7月12日(火) 13:00~15:50

2. 会場: 日本学術会議 5-C(2)会議室

3. 出席者:

日本学術会議: 大垣真一郎副会長

エネルギー政策の選択肢分科会(敬称省略):

今田高俊、海部宣男、北澤宏一、笠木伸英、小林良彰、矢川元基、鷲谷いづみ

事務局: 石原、瀬高、中島他

4. 資料:

資料1 前回議事要旨(案)

資料2 提言 日本の未来のエネルギー政策の選択に向けて

—電力供給源に係る6つのシナリオ—

資料3 日本学術会議 東日本大震災対策委員会(平成23年6月23日)配布資料

資料4 放射能汚染が鳥類の繁殖、生存、分布に及ぼす影響—チェルノブイリ原発事故 25年後の鳥の世界汚染が鳥類の繁殖、生存、分布に及ぼす影響—

日本列島弧の生物多様性と原子力発電所—未来への希望と負の遺産—

資料5 今後の進め方について

参考 エネルギーの選択肢に係るQ&A

5. 議事:

1) 前回議事要旨(案)の確認

原案のとおり承認された。

2) 提言公表の経緯について

以下のような意見が出された。また、北澤委員長より資料2、資料3に基づく説明が行われた。

○ 提言の緊急的な必要性の判断から、東日本大震災対策委員会の場でまとめ、公表することとなったが、審議のプロセスを通常通りに戻しても良いかもしれない。

○ 審議のプロセスが曖昧なまま、合意が取れたということがないようにしてほしい。

3) 今後の予定について

以下のような意見が出された。また、北澤委員長より資料5、参考に基づく説明が行われた。

- コストを評価することは分科会の当初の目的でもあり、議論の裏付けを出すべきではないか。
- コストに関してはデータに不確かさがあり、提出する形態は考える必要があるのではないか。また、安心や安全といった感性は数値に取り入れることができず、そのような観点をどう捉えるかも考えなければならないのではないか。
- 需用者の観点として、国民サイドの議論、意識も取り入れるべきではないか。
- Q&A方式は分かりやすいが、バイアスがかからないよう、広い範囲から意見を取り入れて両論併記にするべきではないか。
- Q&Aは提言を理解していただくための補足としてはどうか。

4) その他

鷲谷委員より、資料4(日本学術会議 統合生物学委員会生態科学分科会・環境学委員会自然環境保全再生分科会主催、「フォーラム：東日本大震災による生態系や生物多様性への影響—どれだけの影響があったのか、回復に向けて何を考えるべきか—」、2011年6月28日)に基づく説明が行われた。また、以下のような意見が出された。

- 温排水の温度による影響や、含まれる殺生物剤の影響がある。
- 熱汚染という問題は、原子力発電に限らない問題である。

以上